

# 《日商簿記2級》 —工業簿記—

## 10. 製造間接費計算①

～製造間接費の配賦について～



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



## 製造間接費の配賦について

# ～製造間接費の配賦について～

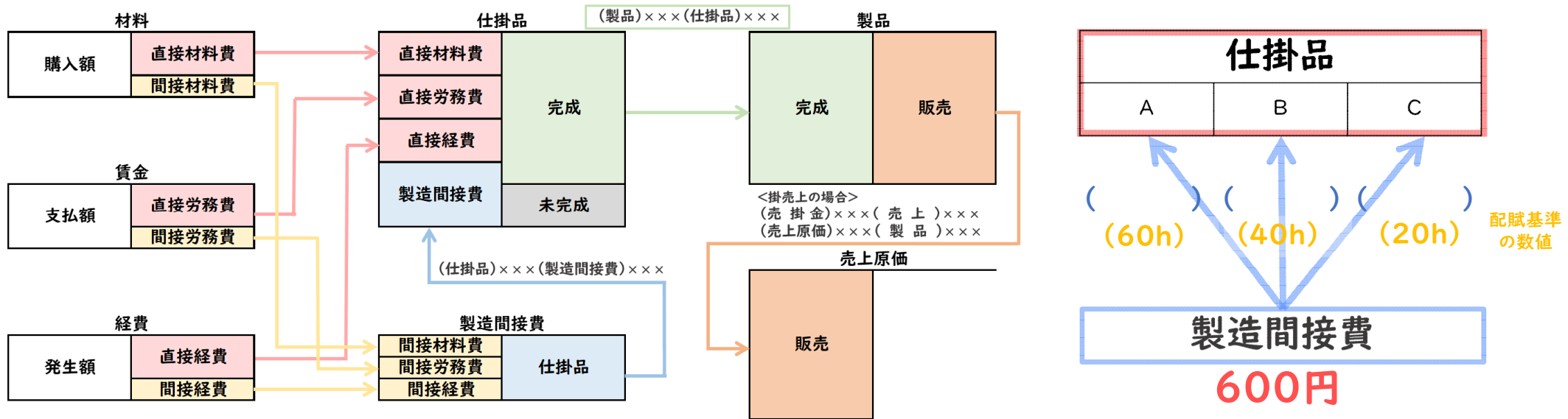
## <配賦額の計算方法とは?>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



# 製造間接費の配賦について

- ・材料費・労務費・経費の間接費が集計された( )は、何らかの基準を用いて( )することになるが、これは( )勘定へ振替えられる。



- ・具体的な配賦額の計算方法としては、( )に(時間や生産量などの)何らかの基準である( )の数値をかけて計算する。

$$\text{(各製造指図書ごとの) 配賦額} = \text{配賦率} \times \text{各配賦基準の数値}$$

# 製造間接費の配賦について

○用語○ ( )…生産設備の利用度合い(金額・時間・数量など)  
( )…一定期間における操業度の予測値

(各製造指図書ごとの)配賦額 = **配賦率** × 各配賦基準の数値

## 《配賦率について》

・配賦率には、下記の2つがある。

( )……製造間接費の実際発生額をもとに計算したもの

$$\frac{\text{製造間接費の実際発生額}}{\text{実際配賦基準数値の合計(実際操業度)}}$$

( )……年度のはじめに製造間接費の予算額(予定額)を設定し、この予算をもとに計算したもの

(例) 製造間接費月間予算額:660円  
月間直接作業時間:110h  
(基準操業度)

$$\frac{\text{製造間接費の予算額}}{\text{予定配賦基準数値の合計(基準操業度)}}$$

- ・予定配賦率を用いるメリットには、「計算が迅速にできる」・「単位原価の変動がない」ことなどがあげられる。
- ・また、予定配賦率を用いる場合、月末に把握される実際発生額との差額で ( ) を把握する必要がある。

# 製造間接費の配賦について

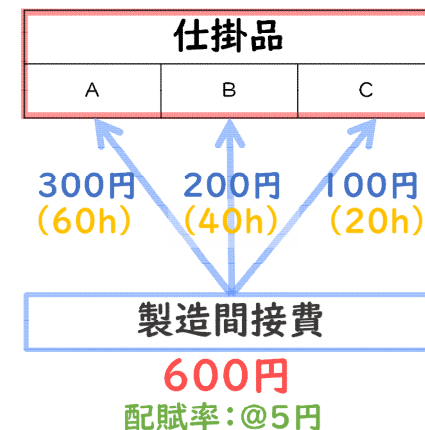
(各製造指図書ごとの) 配賦額 =  $\frac{\text{配賦率}}{\text{実際配賦率}}$  × 各配賦基準の数値

- ・実際配賦率
- ・予定配賦率

## 《配賦基準について》

・配賦基準には、下記のようなものがある。

配賦基準	内容
直接材料費基準	直接材料費の金額をもとに配賦する方法
直接労務費基準	直接労務費の金額をもとに配賦する方法
直接作業時間基準	直接作業時間をもとに配賦する方法
機械作業時間基準	機械作業時間をもとに配賦する方法
生産量基準	生産量をもとに配賦する方法



・このように、製造間接費は( )・( )・( )などの何らかの基準を用いて、各製造指図書における **実際の操業度 (利用度合い)** に応じて配賦していく。

# 製造間接費の配賦について

## —問題解説—

～配賦額を計算してみよう～

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



# 製造間接費の配賦について

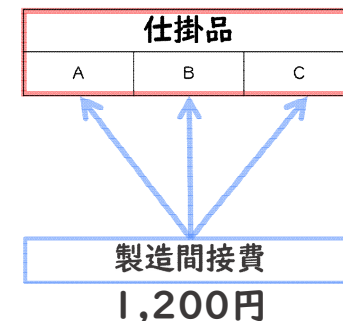
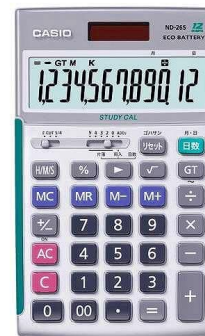
## 問題1

下記の資料より、各配賦基準における製造間接費の配賦率および配賦額を計算しなさい。

### [資料]

- ・製造間接費の当月実際発生額：1,200円
- ・配賦基準（各製造指図書における実際操業度）

	製品A	製品B	製品C	合計
直接材料費	300円	200円	100円	600円
直接作業時間	100h	80h	60h	240h
生産量	700個	350個	150個	1,200個



<電卓の打ち方(1.の問題の場合)>  
「2××」で「K(定数計算)」を表示させる  
(これで、配賦率の「2×」が固定された状態となる)  
そして、各製造指図書の実際操業度の数値を  
「300= 200= 100= 」と打っていくと配賦率の  
「2×」は固定されたままなので、配賦額が効率よく計算できる。

## 1. 直接材料費基準における配賦率および実際配賦額

配賦率：(@        円) 製品A：(        円) 製品B：(        円) 製品C：(        円)

## 2. 直接作業時間基準における配賦率および実際配賦額

配賦率：(@        円) 製品A：(        円) 製品B：(        円) 製品C：(        円)

## 3. 生産量基準における配賦率および実際配賦額

配賦率：(@        円) 製品A：(        円) 製品B：(        円) 製品C：(        円)

# 製造間接費の配賦について

**問題2** 下記の資料より、各問に答えなさい。

[資料]

- ・製造間接費の当月実際発生額:660円
- ・各製造指図書ごとの当月直接作業時間(実際操業度)  
製品A:6h 製品B:4h 製品C:2h
- ・製造間接費の月間予算額:500円
- ・月間直接作業時間(基準操業度):10h

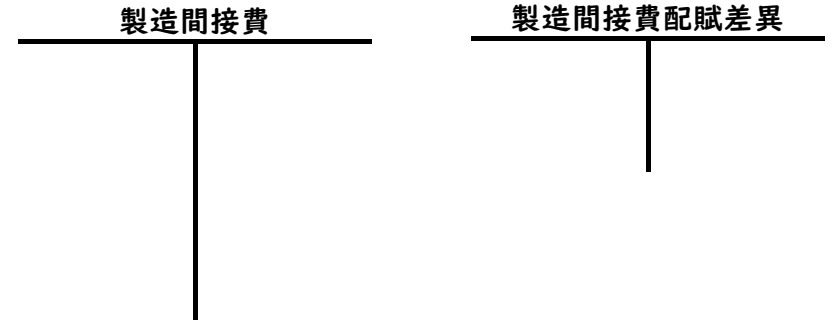
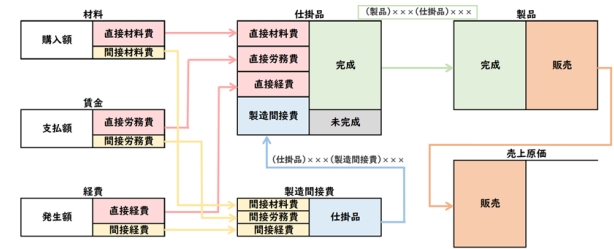
1. 予定配賦率および予定配賦額を計算しなさい。

予定配賦率:(@      円) 製品A:(      円) 製品B:(      円) 製品C:(      円)

2. 予定配賦における仕訳を行いなさい。

3. 製造間接費差異における仕訳を行いなさい。

<電卓テクニック>  
「50××」  
「6h= 4h= 2h= 」  
※予定配賦率50円を固定して  
各実際操業度にかける





## 《まとめ》

- 製造間接費は何らかの基準を用いて、( ) 勘定へ配賦する
- 各製造指図書への配賦額は「配賦率×各配賦基準の数値」で計算していく
- 製造間接費は、原則、( )を用いて計算する
- 配賦を行う際は、電卓の定数計算機能「K」を使うと効率よく計算できる
- 予定配賦額と実際発生額の差額は( )として計上する



※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、ぜひ、高評価をお願いします！

第10回の内容お疲れさまでした♪

